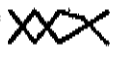


# ウクライナ危機

## 目でみる

# 経済



送インフラの被害、黒海の輸出港の閉鎖などによって、輸出が長期にわたって滞る恐れがあります。ロシアについても、経済制裁の影響で、生産量の減少や品質の低下が懸念されます。

ロシアのウクライナ侵略は、両国が小麦、大麦、トウモロコシ、ヒマワリ油など農産物輸出で大きなシェアを占めることから、世界の食料供給に懸念を生じさせています。

また一方、主要輸出国のカナダやロシア、米国の収穫が減少し、値上がりが続いていたところへ、ウクライナ情勢の影響で供給不安が増幅したためです。

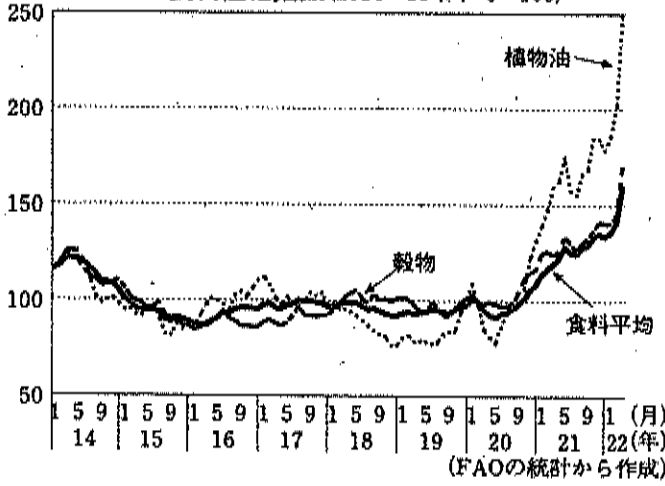
### 長期に滞る恐れ

ウクライナ国内の穀物備蓄施設の被災、輸

入小麦の売り渡

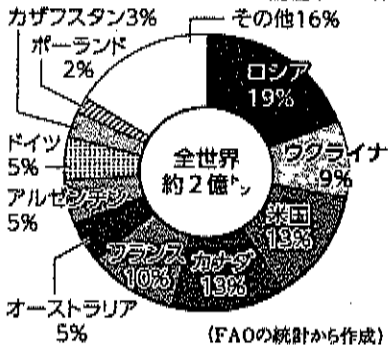
日本は、ロシアとウクライナから穀物をほとんど輸入していません。しかし、両国からの輸出が滞れば、輸入国の代替需要が日本の主な輸入相手国である米国やカナダ、オーストラリアなどへ向かい

FAO食料価格指数(2014~16年平均=100)

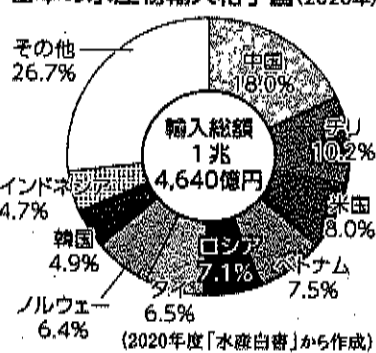


# 世界の食料供給に懸念

世界の小麦輸出に占める割合(2020年)



日本の水産物輸入相手国(2020年)



他方、日本が最も影響を受けそうなもの

### 事業停止の意向

民間信用調査会社の

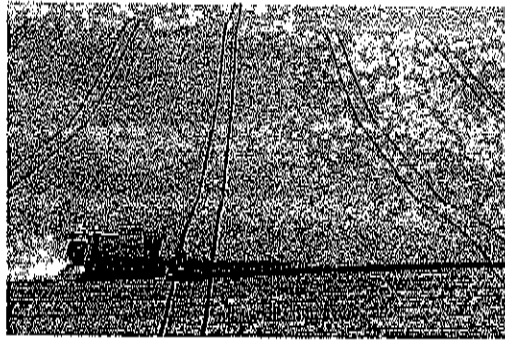
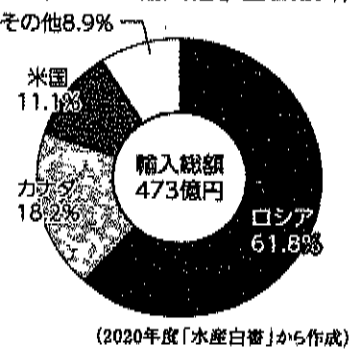
(北川俊文)

し価格を17.3%引き上げました。しかし、これにはウクライナ情勢の影響は織り込まれていませんでした。FAOの試算によると、両国からの穀物の輸出の減少は、他の諸国の輸出余力では補えず、食料の国際価格が8%もの上昇する恐れがあるといわれています。

は、水産物です。ロシアは日本にとって水産物輸入額の7.1%を占めています。そのため、ロシアからの輸入品を扱う食品産業からは、不透明な先行きに対する不安の声が上がっています。

報によると、北海道函館市の水産珍味会社「味の海豊」がこのほど、従業員を解雇し、事業を停止する意向を固めました。同社は、新型コロナウイルスス禍で経営不振に陥り、さらにロシアのウクライナ侵略で原料調達の見通しが不透明となり、事業停止の決断にいたったといわれています。

日本のカニ輸入相手国(2020年)



コンバインによる小麦の収穫＝ロシア・スタブロポリ地方、2021年7月17日(ロイター)